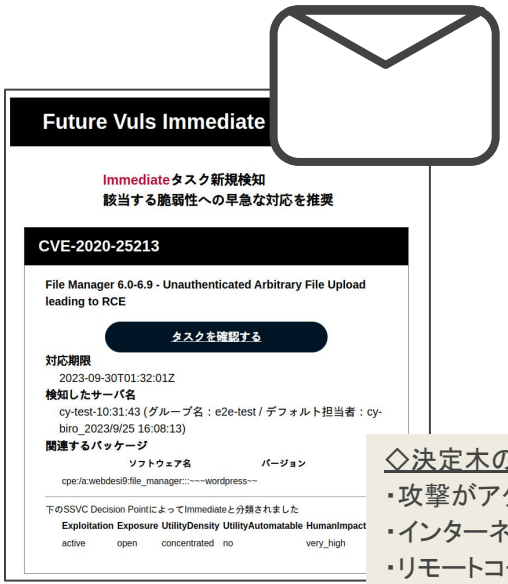
# FutureVulsのSSVC機能を用いたDev/Ops目線の運用

vuls.biz

運用者は **immediate** 検知の通知を受けてログイン。決定木、プロセスやPort開放状態、
IPSルール有無、脆弱性情報、CERT注意喚起、Exploit情報等を画面から確認して対応する。



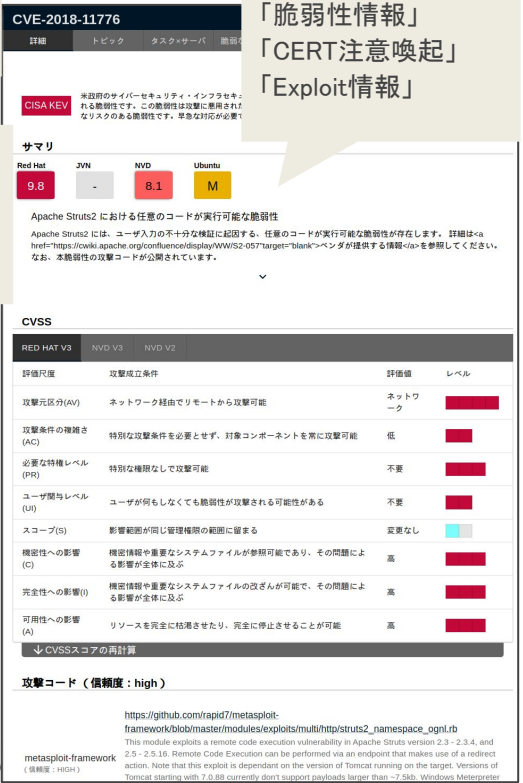

Login

◇決定木の判断理由
- 攻撃がアクティブ
- インターネット公開システム
- リモートコード実行
- 重要システム

であるため
**immediate** と判断された


対象機器や対応期限等

「ソフトウェア名」
「プロセス有無」
「Port開放状況」




「脆弱性情報」
「CERT注意喚起」
「Exploit情報」

# FutureVulsのSSVC機能を用いたCSIRT目線の管理

vuls.biz

CSIRTは全社横断で immediate と out-of-cycle の対応状況を確認し、
対応期限が超過したタスクには一括で対応を催促する。脆弱性管理の工数を削減可能。


immediate に分類されたタスクのうち
「未対応」かつ「対応期限が超過している」
などでフィルタ

一括選択


タスクの担当者に対応を催促する。
一つの操作で全社の担当者に指示が可能。